

わたしの時はまだ来ていない ヨハネによる福音書 7:1-10

1. その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。それは、ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしていたので、ユダヤを巡りたいとは思われなかったからである。(7:1)
 - a. 「その後」という言葉は新しい場面に移る時にヨハネがよく使う言い方だが、この言葉は黙示録（やはりヨハネの著）にも見られる。ここでのガリラヤとは遠隔地、あるいは異邦人の地、という意味で使われていると思われる。
 - b. この時点ではイエスはすでにユダヤの宗教指導者たち（ヨハネは単に「ユダ人」と記している）から十分に注目されていた。ユダヤ人たちはイエスを殺そうとしていたので、イエスはより一層聖霊の導きに敏感になっていた。
2. さて、仮庵の祭りというユダヤ人の祝いが近づいていた。そこで、イエスの兄弟たちはイエスに向かって言った。「あなたの弟子たちもあなたがしているわざを見ることができるよう、ここを去ってユダヤに行きなさい。自分から公の場に出たいと思いつながら、隠れた所で事を行う者はありません。あなたがこれらの事を行うのなら、自分を世に現しなさい。」(7:2-4)
 - a. 主がイスラエルに与えた預言的な意味を持つ祭りは7つある — 過越の祭り、種なしパンの祭り、初穂の祭り、ペンテコステ、ラッパの祭り、贖罪の日、仮庵の祭り。イエスはすでに過越、種なしパン、初穂の祭りを成就され、聖霊がペンテコステを成就された。私たちは秋の祭りが成就するのを待っている。
 - b. イエスの兄弟たちは無意識のうちに仮庵の祭り中にイエスにご自分を世に現すように言い、この祭り中にイエスが殺されて預言的意味が無効になってしまうよう仕向けたのかもかもしれない。

[訳者注]

春の祭り（イエスが最初の到来において成就された）	秋の祭り（イエスの再臨において成就される）
過越の祭り（イエスの十字架死を象徴）	ラッパの祭り（キリストの再臨とその後のさばきを象徴）
種なしパンの祭り（罪のないキリストを象徴）	贖罪の日＝ヨム・キプール（イスラエルの救いを象徴）
初穂の祭り（イエスの復活を象徴）	仮庵の祭り（千年王国を象徴）
ペンテコステ（聖霊降臨を象徴）	

3. 兄弟たちもイエスを信じていなかったのものである。そこでイエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも来ているのです。(7:5-6)
 - a. イエスはご自分の身の危険と神のタイミングを察し、兄弟たちの世に現すようにとの要望を拒否する。
 - b. 神の御国のタイミングは私たちが敏感になるべき大切な要素である。神のしもべとして、この世の条件を取り払い、神のやり方を学ばなければならない。クリスチャンとして、私たちの時もいつも来ているわけではなく、これから来るものもあることを学ばなければならない。
4. 世はあなたがたを憎むことはできません。しかしわたしを憎んでいます。わたしが、世について、その行いが悪いことをあかしするからです。あなたがたは祭りに上って行きなさい。わたしはこの祭りには行きません。わたしの時がまだ満ちていないからです。」(7:7-8)
 - a. この世はアダムとエバの墮落以来罪に満ちている。この世の罪深い性質が、体系的に人間が悪を好み善を憎むようなシステムを生み出してしまった。イエスはこの邪悪な行為についてあかしするために来られ、それゆえにやがて殺されるのである。
 - b. イエスは神のしもべとして最高の見本であり、父なる神から祭りに行くよう言われる時を待っている。イエスの兄弟たちは自分たちがイエスの行動を変えられると思ったが、それをできるのは父なる神のみである。
5. こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。しかし、兄弟たちが祭りに上ったとき、イエスご自身も、公にではなく、いわば内密に上って行かれた。(7:9-10)
 - a. しかしこの後イエスは祭りに上って行かれる。それは兄弟たちに言われたからではなく、イエスのご意思でもなく、ただ神のご意思による。「みこころが行われますように。」
 - b. 私たちが神とともに歩む時も、待つ時と動く時を見定めることが大切。神のしもべである私たちは好きなことを好きな時に行うのではなく、私たちがもっとも信頼する神に従い、神が私たちを動かすのを待つべきである。